

企業経営を楽しくするために、効果の出るやり方を作ってそれに集中しましょう。

%company%

%free1%

%free2%

%name\_sama%

◆◆中小企業経営者列伝、第14弾。4回シリーズ

「人材は人財」をモットーに  
お客様から評価される企業をつくり上げ

お客様に寄り添い  
誠実に仕事することを何よりも大切にしている

娘に命を救われた男  
ジェムグループ 代表 長坂五郎氏

- ◆第1回 娘に命を救われる
- ◆第2回 誠を貫く
- ◆第3回 営業しないで業界を代表する企業に
- ◆第4回 東北大震災で7割の発電機が動かない

~~~~~  
第1回 娘に命を救われる

【目次】

- 突然の損害賠償請求
- 絶望の中での娘からの電話
- AI導入事例のカテゴリ別まとめ
- 安堵の結末

長坂社長が率いるジェムグループ、(株)ジェム・テクシアは  
「人材は人財なり」という理念の元、ES(従業員満足)の追求、従業員教育を徹底して行い  
一般的な営業は行わず、評判の良さからの紹介のみで業績を伸ばし

経営革新承認企業(栃木県)

企業家賞受賞(アジア・日本優秀企業家連盟)  
等の受賞歴も多く、独自の研修所、試験場も持つ  
消防用設備業界屈指の企業です。

今回から4週に渡り、長坂社長の経営の歩みを追っていきたいと思います。  
どうぞお楽しみに！

## ■突然の損害賠償請求

人生の中で、あの時ほど自分が追い詰められたことは、他にはなかったですね。  
今振り返ってみると、何故あの時そんなに絶望したのか、  
どうしてあそこまで心が折れたのか、その答えを見つけるのは難しいです。

でも、あの瞬間の私は本当に、全てが終わったと感じていました。

あの日、私の元に届いたのは、何千万円もの損害賠償を求める通知でした。

会社を設立して10年ほどが経ち、ようやく経営も軌道に乗ってきて  
その後の飛躍的な成長の兆しが表れ始めたころ

取引先の大手不動産管理会社からの依頼で、  
ある金融機関の保養所の冬季凍結に備えた水抜きと防虫の仕事を受けたのですが、  
そのボイラーが凍結により壊れてしまったとの理由でした。

その作業に当たり、事前に受け取った図面にはその冷暖房設備の記載はなく  
こちらには責任がほとんどない点と

金融機関からの損害額の見積りの写しをもらって知人に精査してもらった所  
請求額には、シャワーのノズルなど関係ないものが多数含まれているうえに  
各部品の金額が相場の倍額であることが分かったので

この2点を、担当営業課長に抗弁したのですが  
担当者は自身のミスを認めず

「専門家なんだからそれぐらいは予見すべきである。  
もうすでに先方には賠償金を支払済みなので、直ちにお支払いください」  
の一点張り。

大企業特有の担当者に専門知識がなく、自分の保身しか考えない風土にが原因で

生じたトラブルしたが、その額はあまりにも大きく、私の事業の規模からすれば到底支払えるものではありませんでした。

大企業にとっては、あの金額は単なる数字の一つに過ぎないのかもしれませんが、たった一枚の紙で済ませられるものだったかもしれませんが、私にとっては、その紙一枚が人生全てを奪い去るような破壊力を持っていたのです。

当時の売上は、今の10分の1程度で、経営は常にギリギリの状態、そこに突きつけられたのは、あまりにも重い負担でした。

そんな状況を打開すべく、一度は実家に助けを求めました。兄に事情を話し、何とかお金を工面してもらおうとしたのです。実家での会話は、今でも鮮明に覚えています。

私の期待とは裏腹に、兄夫婦から返ってきた言葉は冷たいものでした。

「自分でやったことだろ」。

その言葉が、まるで私の胸に鋭い刃を突き立てるように感じました。

また、当時の妻は厳しい人で「あなたがやったことなんだから、自分で何とかしなさい！」と言い募ります。

私は自分の失敗を認めざるを得ませんでした、それでも家族に見放されるとは思ってもいませんでした。

資金も集まらず、もう頼る場所もなくなり、絶望感がどんどん深まっていきました。

### ■絶望の中での娘からの電話

その日から、私は三日三晩、どこへ行くでもなく、ただ歩き続けました。心の中では「もう無理だ」という言葉が何度も繰り返され、何度も自分に言い聞かせるようにしていました。

事ここに至ると、「生命保険金で責任を取るしかない」と、思い栃木でも「確実に死ぬる」と有名な橋のところに行き、飛び込もうとしたのですが親切な人に止められました。

「昼間は人がいて止められる」と思った私は、  
2 日目は人通りが途絶える夜中に行きましたが  
そこでも迷いが生じ、飛び込めませんでした。

迷っていたというか、混乱していたんだと思います、  
携帯電話も電源を切り、世界から自分を遮断していたのです。  
もう誰の声も聞きたくありませんでした。  
誰にもこの苦しみを理解してもらえない、そう思っていました。

しかし、「今度こそ」と思って橋のところまで行った三日目の夜、  
私はふとした瞬間に携帯の電源を入れてしまったのです。

自分でも理由は分かりません。  
ただ、何かが心に引っかかって、そのスイッチを押したのです。

そして、まさにその瞬間に電話が鳴りました。  
まるで、誰かがずっと私の様子を見守っていたかのように。

それは娘からの電話でした。

「お父さん、どうか死なないで」

娘の声が聞こえた瞬間、全ての感情が一気に溢れ出しました。  
「私も一生かけて、この困難を乗り越えるから」  
その言葉は、私にとって救いの声でした。

涙が止まらなくなり、私はその場で泣き崩れました。  
娘の声はただの言葉でなく、私を生かしてくれたのです。

## ■打つ手は無限

その後、徐々に現実に戻り始めた私は、  
自分の状況を冷静に見つめ直すことができるようになりました。

私の頭に浮かんできたのは、  
かつて滝口長太郎氏が言っていた「打つ手は無限」という言葉でした。

どんなに追い詰められても、必ず道はある。  
私はその言葉を信じ、自分にできることを考え始めました。  
担当者は何を言っても進展しないなら、いっそのこと社長に直談判しようと決心したのです。

通常、門前払いが当たり前で、社長にはなかなか会えませんでした。支社長が良い人で、私の窮地を救おうと社長に繋いでくれて奇跡的に、私はそのチャンスを掴むことができました。

そして社長との面会の時、私は必死で自分の状況を伝えました。心の底から、この問題を解決したいという気持ちをぶつけたのです。

その結果のその後の展開は、思いがけないものでした。

社長は私の話を黙って聞いてくれた後、しばらくの沈黙を挟んで「それはうちも悪かった」と言っていただけなのです。

その言葉は、まるで氷のように固まっていた私の心を溶かしてくれました。社長の一言で、私は再び前を向く力を取り戻したのです。

#### ■安堵の結末

その後、相手の会社がさらに内部調査を進めた結果、実際の損害額は請求された金額の半分以下であることが判明しました。つまり、私たちは過大な金額を請求されていたのです。

なのに担当の部長や営業所長は最後まで責任を認めなかった。社長は怒りだし、私に対して「お金は払わなくていい」とまで言ってくれました。

しかし、私たちにも過失があったのは確か。全てを他人のせいにするつもりはありませんでした。交渉して、半々で負担することに一旦は決まったのですが

「今回のミスは専門家としてどうだったのだろう」と考えると内心忸怩たる思いがありました。再度先方と話し合いをして最終的には、私たちが損害額の6割を負担するという形で合意が成立しました。

その後、私は友人や知人に助けを求め、何とか必要な資金を集めて返済しました。支払いが完了した時、私はようやく肩の荷が下りた気がしたものです。

しかし、あの時の  
娘の言葉、  
社長との面会、  
そして自分が踏み出した小さな一歩

の全てが、今の私を支えていると思っています。

さらにこの後、思いがけない展開が待っており  
6割負担を申し出たことを聞いた社長が、支社長に当社の仕事ぶりを確認したうえで  
損害賠償額の数倍もの仕事を、継続的に発注してくれるようになり

その影響は他県へも波及していき、  
埼玉支社を設立し数億円の売り上げを上げられるようにまでなりました。

人生において、どんなに苦しい時でも、打つ手は無限です。  
どんなに絶望しても、必ず道はあるのだと、私はこの経験を通じて学んだ気がしています。

いかがでしたでしょうか？お役に立ちお楽しみいただけましたか？

今回を持ちまして、ご好評をいただきました「AIリテラシー勉強会」は終了となります。

次回からは

◆中小企業経営者列伝、第14弾。4回シリーズ

「人材は人財」をモットーに  
お客様から評価される企業をつくり上げ

お客様に寄り添い  
誠実に仕事することを何よりも大切にしている

娘に命を救われた男  
ジェムグループ 代表 長坂五郎氏

の第2回 誠を貫く  
をお送りいたします。  
お楽しみに！

編集長:岩下 一智 MRC

~~~~~

■参考図書■Amazon 電子書籍

渋沢栄一翁の 合本主義「義利合一」の時代がきている

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

\*著者:(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

~~~~~

本記事に対するご質問やご感想は下記アドレスまでお願いいたします。

[heart\\_gaia\\_gi@hosbiz.net](mailto:heart_gaia_gi@hosbiz.net)

~~~~~

バックナンバーは下記の URL を確認してください。

[https://rinenkeieishi.net/mail\\_magazine/hayabusa.php](https://rinenkeieishi.net/mail_magazine/hayabusa.php)

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を続けていきますので、重ねてご支援ご鞭撻を  
よろしく申し上げます。

次回、第 671 号は……

◆◆中小企業経営者列伝、第 14 弾。4 回シリーズ

「人材は人財」をモットーに  
お客様から評価される企業をつくり上げ

お客様に寄り添い  
誠実に仕事することを何よりに大切にしている

娘に命を救われた男  
ジェムグループ 代表 長坂五郎氏

の第 2 回 誠を貫く

を 24・11・01(金)にお届けする予定ですので、  
楽しみにしててくださいね。

※なお内容は予告なく変更する場合がありますので、ご承知ください。

■LittleBiz 企業・中小企業で働く人々や、経営者が幸せでなければ、  
私たちは「世のため・人のため」になれない。

とクルー一同尽力しております。

■平本靖夫、50年の経営支援家人生の集大成 第1弾！

『合本主義「義利合一」の時代がきている』

Amazon kindle にて発売中！！ 2000円

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。

では、また次号で元気にお会いしましょう！

---

◆発信日・・・毎週・金曜日

◆発行責任者・・・Captain 平本靖夫

◆編集長・・・岩下一智・(株)I&C・HosBiz センター 執行役員  
マーケット・クリエーター(MRC)・・・CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

\*お問い合わせは「<https://rinenkeieishi.net/contact/form.php>」まで

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>

◆はやぶさ・に関するお問い合わせ・質問は

メールアドレス：kazu\_zohan@hosbiz.net

発行責任者：Captain 平本靖夫、

編集長：岩下一智 MRC